

第3学年 道徳科学習指導案

令和元年10月9日（水）第5校時

- 1 主題名 正しいことは、はっきり言おう 内容項目【A 善悪の判断、自律、自由と責任】
- 2 ねらい 主人公の行動を自分のこととして捉える学習を通して、自分では正しくないことだと思いつつも、友人に引きずられてしまう心の弱さがあることに気づき、正しいことや正しくないことを自分で考え、正しいと思えることを積極的に行おうとする判断力を育てる。
教材名 「心にひびくかねの音」（出典：「みんなのどうとく」3年 学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、学習指導要領の内容項目における【A 善悪の判断、自律、自由と責任】の第3学年及び第4学年の指導の観点、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。」を深めることを意図したものである。これは、第1学年及び第2学年「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」を受け、さらに第5学年及び第6学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」へと発展していく。また、中学校の「自立の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」につながっていく。

人として、行ってよいことや悪いことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から身に付けていくべきものである。この判断する力を持ち、人に左右されることなく自ら正しいと信じる心に従って主体的に行動できるようになるということは、価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎となるため、的確に判断できるように指導しておくことが重要である。そのためには、日頃から何事にも積極的に取り組む姿勢が必要である。その姿勢が自らを信じる姿につながることで、自信をもって積極的に行動できるようになると考える。

しかし、自分の楽しさを優先したり、自分勝手な行動をしてしまったり、「友達だから」と、仲間から外れることを恐れ、流されてやってしまう等、自分の人としての心の弱さから、よくないと分かっているのに、ついやってしまうことがある。

指導に当たっては、正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てたい。特に、正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより、人から勧められたときにきっぱりと断ったり、正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるような心情も育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、とても明るく活動的である。日常において、転んでケガをしてしまった児童にすぐに駆け寄って優しく声をかけたり、失敗して落ち込んでいる児童に「大丈夫だよ。」と自然に励まそうとしたりする姿が多く見られる。

第3学年では『なかまックス』を合言葉に「なんでも自分から進んで行う」「必ず最後までやりとげる」「真心をこめて行動する」「仲間を大切にする」を信念に学年経営を進めてきている。学級においても、「メリハリを大切に」「話を聞いて反応する」など、基本的なことができるように指導を

続けている。また、道徳の授業では「あと、ひと言」で、「相手に関係なく、自分が正しいと思ったことは自信をもって行うことの大切さ」に気付き、自分が正しいと思ったことを友達にも伝えて、行動することのよさと難しさについて学習してきた。そのため、学級の中で何か問題が起きて、自分たちで解決しようと話し合ったり、どうすればよかったのかをその都度、個人や学級で話し合ったりできる態度が育ってきている。しかし、どのようなことがよくないことなのかを、自分で判断することができない児童も多く、生活経験の差も見えてきている。

そこで、これまでにやってはいけないと分かっているのに、ついやってしまったことはないか実態を把握するために事前アンケートを行った。

・やってはいけないと分かっているのに、ついやってしまったことはありますか？（複数回答可）	
やってしまったこと	主な理由
・廊下を走ってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん遊びたくて急いだ。 ・授業に遅れそうだから走った。 ・友達が走ったからつられた。 ・誰も見ていなかったから。 ・友達だから、一緒にやってしまった。
・消しゴムのかすを捨てずに、机からはらった。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も見ていないから。 ・捨てるのが面倒だから。
・通学路ではない道を通って帰った。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に誘われたから。 ・早く帰ろうといわれたから。
・友達にうそをついたり、悪口を言ったりした。	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラしていたから。 ・人気者になりたかったから。 ・自分の言うことを聞いてくれないから。

アンケートの結果、児童は、正しくないを知りつつも、そのことをなかなか実行できなかつたり、悪いことと知りながら、周囲に流されたり、自分の弱さに負けてしまいつい悪いことを行ってしまう児童も少なからずいる。また、普段の児童の様子からも、自分の行っていることが悪いことだとよく分かっていないため、つい行ってしまう児童が多い。このことから、生活経験が少なく、自分でどのようなことがよくないことなのかを判断できる力が育っていないことが伺える。

やってしまう主な理由として、悪いことと理解しながら、やっぱり楽しそうだと感じて行動してしまったり、仲のよい友達に誘われて断ったら、次からは遊んでももらえなくなるかもしれないことを心配して、本当は嫌なのにしてしまったりする児童もいる。面白そうなことをやりたいと思う気持ちや断りにくい気持ちも理解しつつ、それでも、正しくないと判断したことは自分と相手の気持ちを大切に思い切って伝えて、積極的に行動できるようにすることが大切である。

そこで、本時の授業を通して、正しいと思えない場面に出会った時にどんな気持ちをもつことが大切なのかを考えさせていく。そして、正しくないと感じたら、自分の心に正直になって言葉や行動で伝えることや、人に左右されずに自信をもつこと、正しくない相手にも誠意をもって伝える勇気をもつことの大切さに気付かせ、自分のこれまでの行動を振り返りながら、今後の生活をよりよくしていこうとする心情を育てていく。

（3）教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公のアルベルトが友達につぐみをうちに行こうと誘われ、気が進まないが流されるままに、つぐみをうとうとするが、それを止めてつぐみを追い払ってしまう姿を通して、ねらい

に迫る内容になっている。自分がやりたくないことに誘われた時の気持ちや、友達に誘われたからついて行ってしまう気持ち、流されるままにつぐみをうとうとする気持ち等、断ることができない気持ちを考えさせることが大切である。友達が文句を言って怒っても、正しいと信じることを行えるアルベルトの行動は素晴らしく、この行為を通して、善悪の判断について深く考えさせることができる教材である。

また、この教材はまさにいじめの構造と同じである。いじめにおいても、いじめる児童といじめられる児童の他に、はやしたてたり、無関心をよそおったりする児童がいる。いじめを容認せず、よくないことはしてはいけないと言えるよう役割演技をさせながら、多面的、多角的に考えさせ、多様な考え方に触れさせていき、自己の生き方について考えを深めることができる教材でもある。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①小鳥をうちに行こうと誘われたときのアルベルトの気持ち。

ここでは、主人公の自然や生き物に対する愛情があることに触れながら、それでも、行ってしまふ主人公の気持ちに共感させる。

②鐘がなった後のアルベルトの気持ちの変化。

ここでは、今まさにうとうとする気持ちを素直に出させるために、役割演技をさせながら、ペアや全体で様々な気持ちがあることを知る。悩みながらうとうとする瞬間、鐘がなってどんな気持ちに気付いたのか、そして、アルベルトだけではなく、ゲオルグや友人たちの気持ちにも触れ、正しいと思ったことを自信をもって伝えることの大切さに気付かせる。

③アルベルトの行動について

ここでは、正しいと思ったことを実行する主人公の行動の素晴らしさに触れる。そして、その後の主人公の考え方に触れながら、間違っていることを自分で判断し、よいと思える行動を進んで行うことの大切さに気付かせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

この話から、自分が正しいと思ったことを自信をもって行動できるように、どんな気持ちを一番に考えているべきかを常に考えることの大切さに気付かせる。人と同じである必要はないが、相手のことも考える必要もあること。自分が正しいと思ったことは、どんな状況においても人に左右されずに伝えること。そして、それは、間違っていると相手にも伝えることができる態度や心情をもてるようにしていく。また、正しいと思った行動を自分ができた後の「すがすがしい」気持ちを大切にし、自分に自信をもって生活する素晴らしさにも気付かせる。

4 研究課題との関わり

確かな学力を身につけた みなみっ子の育成を目指して
～「つながる」学習、「かかわる」道徳～

〈仮説1〉

自分との関わりで考え、他者と話し合う活動を充実させ、主体的で対話的な学びのある学習過程の工夫をすれば、考え、論議する深い学びとなり、児童の豊かな心が育つであろう。

〈手立て〉

- ・学級の日頃の様子を撮った写真から入ることで、自分はどうだったかを振り返りながら、友達の考えとの同意点や相違点に気付き、課題に対して、どうあるべきかを自分のこととして考えさせられるような導入を展開する。
- ・課題に対して自分はどう考えたのかを、書いてから発表させることで、自分の心と向き合い、素

直な気持ちを文字にさせる。それにより、今の自分の気持ちを明確にさせていく。

- ・役割演技を入れたり、グループでの話合いの場を小刻みに入れたり、自分の考えを伝える楽しさや議論する面白さを体験させることで、多様な考えを受け入れながら自己の考えを深めさせる。

〈仮説2〉

ワークシートを活用した価値理解、他者理解、自己理解を深める評価の工夫をすれば、物事を多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値に迫ることができ、児童の豊かな心が育つであろう。

〈手立て〉

- ・課題に対して自分の考えをワークシートに書くことで、振り返りながら自分の気持ちの変化や、友達の考えの良さに気づいた感想がしっかりと書けるよう、ワークシートの様式を工夫する。
- ・最後の振り返りを書く前に、一度全体で課題に立ち返り、ねらいとする価値に迫らせる。そして、この時間に学んだことを自分のこれからの生活に活かしていけるよう、声かけをし、自己をみつめながら書く時間を十分確保する。

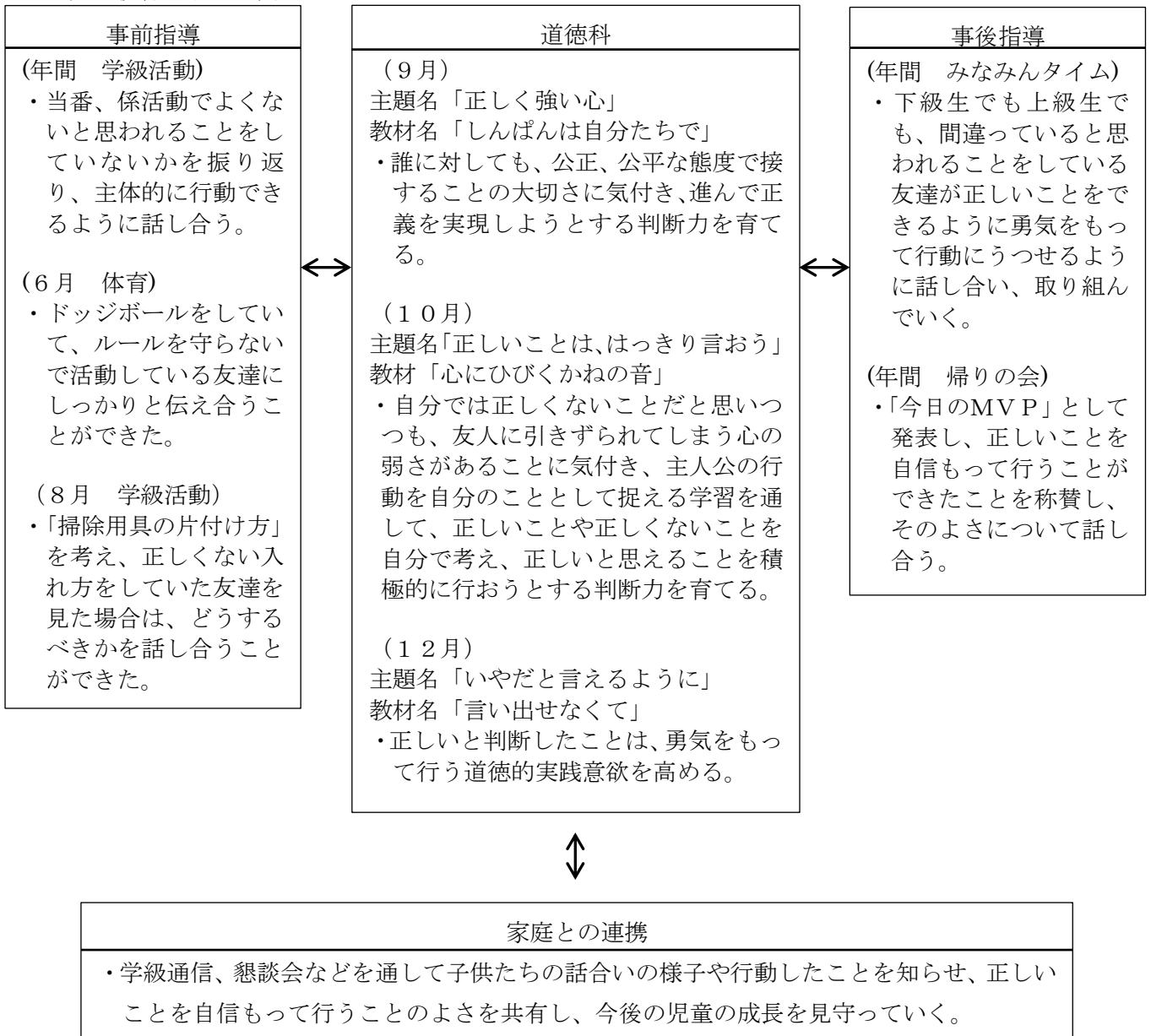
5 学習指導過程

階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導 入	1 学級での様子から、正しくない場面で、自分がした行動を思い起こす。 ・あなたなら、どうする。 2 本時の課題をつかむ。		・よくないと分かっているのに、悪いことをしてしまったことや、友達に誘われたら断れないことに共感させる。 ・ねらいの価値への関心が高まるようにする。	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題 自分がよくないと思う場面に出会った時、どんな気持ちをもつことが大切か。 </div>				
展 開	3 教材の、条件・情況を知る。			4
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・登場人物：アルベルト、ゲオルグ、友人達 ・条件、情況： アルベルトは友達に「小鳥をうちに行こう」と誘われ、気が進まなかったが出かけ、パチンコでつぐみを狙った。教会の鐘を聞きアルベルトは、大声でつぐみを逃がした。 </div>				
	4 教材「心にひびくかねの音」の読み聞かせを聞き、アルベルトの心情を中心に話し合う。 (1) アルベルトはどんな気持ちで小鳥をうちに出かけたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・いやだな。やりたくない。 ・一緒に行かないともう遊んでももらえないかも。 ・やりたくないな。でも少 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを考えられるよう、言葉を補足しながら理解を促し、声の大きさ、抑揚、間などに留意して前半部分を範読する。 ・生き物を大切にしているのに、はっきり断れない主人公の気持ちを共感させる。 ・やりたくはないが、「他の子と同じで 	14

	<p>(2) 自分なら、誘われたら行きますか。</p> <p>(3) アルベルトの思いを演じてみて、感想を発表して話し合う。</p> <p>・つぐみを狙いながらどんなことを考えていたのでしょうか。演じながら発表しましょう。</p> <p>・ゲオルグはどう思っているのか。</p> <p>(4) 鐘がなったとき、何に気づいたのか。</p>	<p>し面白そう。</p> <p>・みんなと同じでいたいから行く。</p> <p>・小鳥がかわいそうだから行かない。</p> <p>・どうしよう。このままうってしまっていいのか。</p> <p>・仕方ない。言う通りにとう。</p> <p>・いやだな。このままどうってしまうよ。</p> <p>・周りに色々言われて、焦ってしまう。</p> <p>・いくじなし。</p> <p>・友達じゃない。</p> <p>・なんでやらないんだ。</p> <p>・小鳥を逃がせてほっとした。</p> <p>・やっぱり、よくないことはしてはいけないんだ。</p> <p>・こんなことはよくない。自分の心に正直になろう。</p> <p>・すっきりした。</p> <p>・廊下を友達と走ってしま</p>	<p>いたい。」と思っている主人公の心の迷いに共感させる。</p> <p>・主人公の気持ちに共感しながらも、自分ならどうするかを考えさせる。</p> <p>・役割演技の活動で一人一人が十分に想像できるよう、教師が場面の状況を演じながら範読する。</p> <p>・ペアになって、アルベルトを演じながらその時の気持ちを言葉にさせ、それを見ている周りの友達の気持ちも一緒に役割演技をさせる。</p> <p>・役割演技の時の気持ちを発表してもらった後、学級全体でも話し合わせることにより、自分と友達の考えを比較しながら、多面的・多角的に教材について考えることができるようにする。</p> <p>・演技をする際には、台詞は自由に加えてよいことや、主人公の心の声を実際に話しながら演技してよいことを伝える。</p> <p>・主人公の友達が文句を言った気持ちに共感させる。</p> <p>・よくないと思っていたことは、やっぱりやってはいけないことに気づき、正しいことをした主人公の気持ちに共感させる。</p> <p>☆よいと思えることを自信もって行うことのよさについて気づき、自分と友達の考えを比較しながら自分なりにどう行動するべきかを考え、話し合っている。(発言、役割演技)</p> <p>・分かっているのにできない人間の心</p>	15
--	--	---	--	----

	<p>て考える。</p> <p>(1) やってはいけないと分かっているのに、やってしまうことはないか。(事前アンケートを振り返る。)</p> <p>(2) 自分がよくないと思う場面に出会った時、どんな気持ちをもつことが大切なのでしょう。</p>	<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の悪口を、言ってはいけないのに、言ってしまった。 ・友達でいたいから、うまく断れない。 ・あまり考えないでしてしまう。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達でも、嫌なことはしっかりと断る勇気が大切。 ・正しいことをしたいと思う自分の心に正直になること。 ・友達とか関係なくよくないと言える勇気。 ・生き物や友達を大切にする優しさや思いやり。 ・絶対にやらないという強い気持ちをもつこと。 	<p>の弱さに共感できるよう、自分の生活を振り返りながらたくさん児童に語らせ、価値理解に迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に迫ることができるよう、主人公の行動を振り返らせる。 ・正しいことを行うには、勇気や強い気持ちをもつことが大切であることに気付かせる。 ・まず、自分の考えを書かせることで、今の自分の心をはっきりさせる。 ・題名「心にひびくかねの音」の意味について、鐘の音が意味することへの考えを深めさせる。 	
終末	<p>6 今日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り「正しいことを行うために」考えたことを書こう。 <p>7 教材の最後の文を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で感じたことや学んだことを踏まえ、これからの生き方についての意見をワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して自分自身をしっかりと見つめさせ、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 ☆これまでの自分と他人との関わり方を振り返り、正しくないと感じたら、誰に対しても自分の心に正直に言葉や行動で伝える勇気をもつことの大切さに気付き、今後の生活をよりよくしようとする心を育てることができたか。(発言、記述) ・主人公のその後を聞き、自分も正しいと思うことに対して自信をもって行おうとする意識が高まるように、余韻をもって終わるようにする。 	<p>6</p> <p>1</p>

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 役割演技をすることで、よいと思えることを自信もって行うことのよさについて気付き、自分と友達の考えを比較しながら自分なりにどう行動すべきかを考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- 正しくないと感じたら、誰に対しても自分の心に正直になって言葉や行動で伝える勇気をもつことの大切さについて、自分との関わりで考えている。

心にひびくかねの音

② 自分がよくないと思う場面に出会った時、どんな気持ちをもつことが大切か。

学級の
写真

アルベルト

- ・他の子と同じでいたい。
- ・小鳥の歌声が好き。



- ・つぐみがかawaiiそうだ。
- ・やっぱり、よくないことはしてはいけない。
- ・こんなことはやりたくない。
- ・心に正直になろう。

学級の
写真

さそわれる



- ・やりたくない。
- ・なんでそんなことするんだろう。
- ・ひどいことするな。
- ・少しおもしろそう。
- ・いっしょに行かないと、もう遊んでもらえないかも。

ゲオルグ

- ・早くうてよ。
- ・当てろよ。

ねらう

- ・どうしよう。
- ・このままではうってしまう。

でも、できない・・・
・おこられそうでことわれない。
・友達だから。

アンケート
結果

学級の
写真

まよい



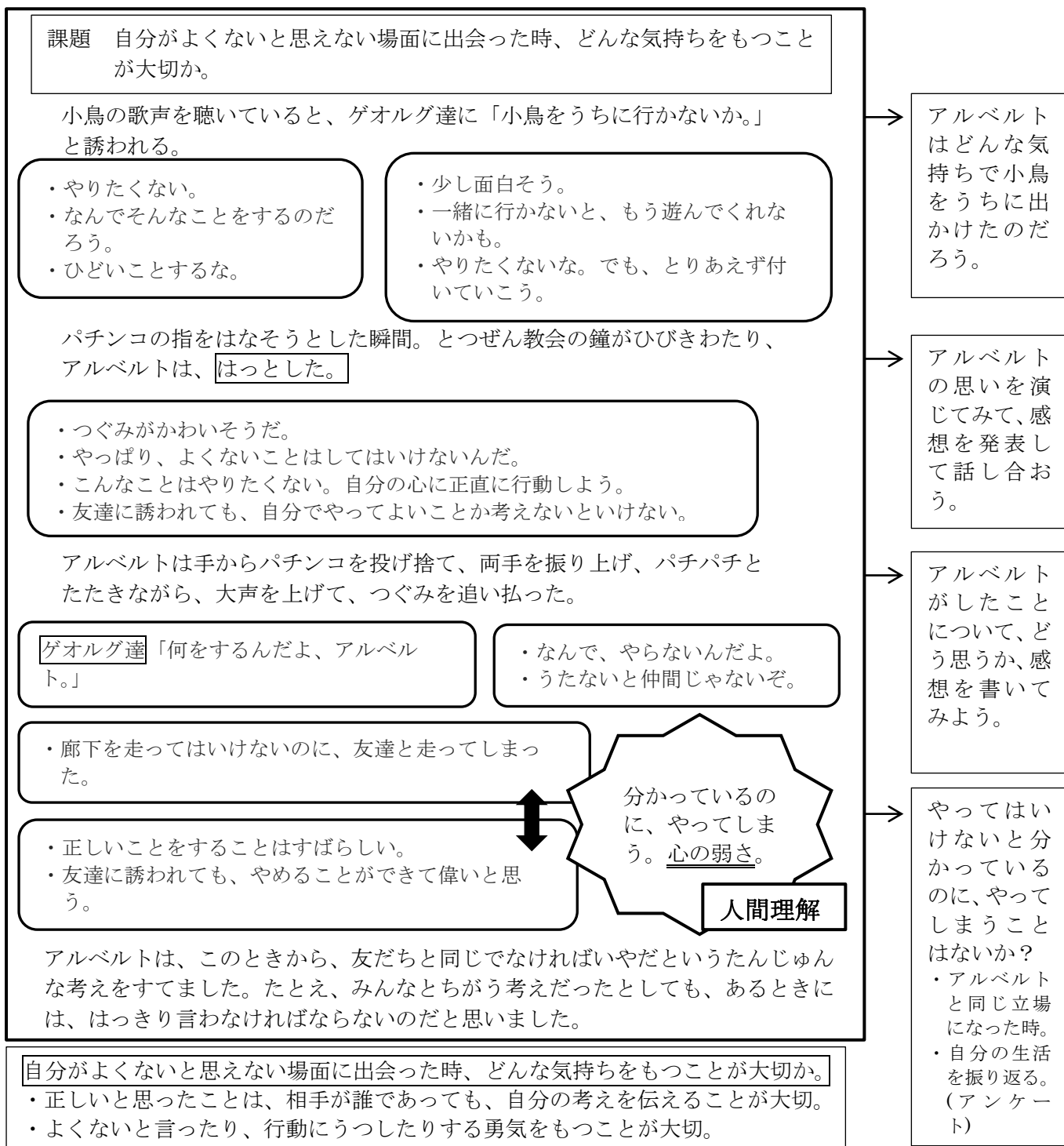
心にひびくかねの音

- ・友達でもことわる勇気をもつ
- ・自分の心に正直になる
- ・ぜったいにやらないと思う強いきもち
- ・だれにたいしても、ことわる勇気



<p>【教材名】心にひびくかねの音 (出典：学研教育みらい「みんなのどうとく」3年)</p> <p>【主題名】正しいことは、はっきり言おう</p>
<p>条件・状況</p> <p>主人公 アルベルト 登場人物 ゲオルグ 友人達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の人から「ぼっちゃん」と呼ばれ、かわいがられているアルベルトは、「他の子と同じでいたい」と思っている。 ・小鳥の歌声を「なんてきれいな声なんだろう。」と耳を傾けている。 ・ゲオルグ達に「小鳥をうちに行かないか。」と誘われ、気がすすまないが出かけていく。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話合いの柱など】



<p>【内容項目】A 善悪の判断、自律、自由と責任</p> <p>【ねらいとする人間像】</p> <p>間違っているかを自分で考えて判断し、よいと思うことを進んで行おうとする児童。</p>
--